

なぜ、この複合組成物は 肌に価値をもたらすのか。

30 年間の探究から、生体界面環境の設計へ。

BIEC の原点は、

- フィトンチッド成分や植物由来の油分、テルペン類、アミノ酸、ビタミン、植物ミネラル、
- さらに海の母液由来のミネラル成分など

を含む複合組成物にあります。

フィジカルバランスウォーター「海の森」。

この複合組成物は、約 30 年前から雑貨として、身の回りの衛生管理や消臭など、幅広い用途で使用されてきました。

その後、肌のお手入れに用いるという用途から、化粧品としての展開へと進みました。

しかし、ここで一つの問いが生まれます。

なぜ、この複合組成物は肌に価値をもたらすのか。

肌悩みのない人には、メイクのノリがよくなり、すっぴんの美しさを目指せるという、日々実感できる価値を。

肌悩みのある人には、肌悩みの改善に加え、改善した肌状態が持続することを目指す価値を。

なぜ、この複合組成物は、肌悩みの有無によって異なる価値をもたらし得るのか。

この「なぜ」を追究することが、BIEC の 30 年間の探究の出発点でした。

個別の効果の先にある「なぜ」
大学や公的研究機関での試験・研究を重ねるなか
で、

BIEC には皮膚バリア効果や抗菌・消臭効果など
があることが確認されてきました。

しかし、個別の効果が確認されても、

なぜこの複合組成物が肌に価値をもたらすのか、
なぜ肌悩みのない人にも、肌悩みのある人にも、そ
れぞれ異なる価値

を届けられるのか。

BIEC が求める価値の全体像を説明する答えには、
十分にたどり着けませんでした。

成分一つひとつの働きを調べるだけで、その答えに
たどり着けるのか。

成分の組み合わせを検証するだけで、肌に起こる変
化を十分に説明できるのか。

個々の成分や効果を理解することにとどまらず、

複合組成物と肌との関係を、より包括的に捉える視
点

が必要だったのです。

生体界面工学との出会い

その探究のなかで出会ったのが、生体界面工学という新たな視点でした。

成分そのものの働きだけでなく、成分と肌が接する界面、そして肌を取り巻く環境に着目する。

この視点から、BIEC はスキンケアの設計そのものを捉え直すことになります。

成分設計を包含した生体界面環境の設計へ
BIEC がたどり着いたのは、

- 成分を選び、組み合わせることだけを考えるのではなく、
- 「成分設計を包含した生体界面環境の設計」

という考え方です。

肌に何を与えるかだけでなく、成分と肌が接する環境をどのように設計するか。

その環境を整えることで、肌が本来持つ機能を発揮しやすい状態を目指す。

そして、毎日のスキンケアを通じて、

肌悩みのない人には日々実感できる美しさを、
肌悩みのある人には悩みの改善と、その状態が持続することを目指す価値

を届ける。

これが、BIEC の設計思想です。

BIEC は、単に複合成分を配合した化粧品を提供するものではありません。

30 年間にわたる「なぜ」という問いの追究から、

成分の働きだけでなく、肌と成分が接する環境そのものを設計するという、新たなスキンケアの考え方へ。

成分設計を包含した生体界面環境の設計。

それが、BIEC による Daily Skin Care の再定義です。

BIEC は医薬品や医薬部外品ではなく、化粧品です。

その位置づけを前提に、これまでの研究・試験で得られた知見を大切にしながら、毎日のスキンケアがもたらす価値を追究していきます。